

専門分野：母性看護学

<概要>

母性看護学では生涯を通じた女性の健康と看護について学びます。中でも妊娠・出産・育児といったマタニティーサイクルにある女性とその家族を対象とした看護を中心に学びを深めます。

母性看護学（4単位 105時間）は、「母性看護学概論」、「母性看護学Ⅰ」、「母性看護学Ⅱ」、「母性看護学Ⅲ」で構成されています。「母性看護学概論」では母性看護の基礎となる概念や対象の特徴、対象を取り巻く社会について理解を深め、女性のライフステージ各期における看護、および女性の生涯を通じた健康の保持・増進の観点からリプロダクティブヘルスケアについて学びます。「母性看護学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」では、正常な妊娠・分娩・産褥・新生児の生理と看護、および妊娠・分娩・産褥・新生児の異常と看護について学びます。「母性看護学Ⅲ」では母性看護における看護過程、および母性看護技術について学びます。

「母性看護学実習」（2単位 90時間）では、病院（産科病棟・産婦人科外来）での実習を通し、妊娠・分娩・産褥期および新生児期を中心とした母性看護の対象の特性を理解するとともに、看護過程を展開し、健康の保持・増進・および援助に必要な知識・技術・態度を習得します。

<単位> 6単位 195時間

<目的>

女性のライフサイクル各期の特徴、人の性と生殖とその意義、および母性各期の特徴を総合的に理解し、家族を含めた対象に応じた看護を実践できる基礎的知識、技術、態度を養う。

<目標>

1. 人間の性と生殖の意義を理解する。
2. 女性のライフサイクル各期にある人々の看護を理解する。
3. マタニティーサイクル（妊娠・分娩・産褥）にある対象と新生児の看護に必要な知識・技術を習得する。
4. 社会の動向から広い視野で母性看護の対象および看護の役割を理解する。

<母性看護学の科目構成と単位時間数など>

科目	単位	時間	年次	時期	学習項目
母性看護学概論	1	30	1	後期	・母性看護の基盤となる概念 ・母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状 ・母性看護の対象理解 ・女性のライフステージ各期における看護 ・リプロダクティブヘルスケア
母性看護学Ⅰ	1	15	2	前期	・子どもを産み育てるにあたっての問題の理解 ・ハイリスクおよび妊娠・分娩・産褥の異常の理
母性看護学Ⅱ	1	30	2	前期	・正常な経過をたどる妊婦・産婦・褥婦・ 新生児の理解と看護
母性看護学Ⅲ	1	30	2	後期	・ハイリスクおよび異常妊娠・分娩・産褥・新生 児の看護 ・周産期にある対象の看護過程の展開と看護技術
合計	4	105			

科目名	科目担当者	開講時期	単位数／時間数
母性看護学概論	専任教員	1年次後期	1単位／30時間
科目目標			
1. 母性看護学の基盤となる概念について理解する。 2. 女性のライフステージ各期における身体的・心理的・社会的特徴を理解する。 3. 母性の健康を守るための母子保健・医療・福祉の現状を理解する。 4. リプロダクティブヘルスに関する主な健康問題と看護について理解する。			
教科書		参考文献	
系統看護学講座 専門Ⅱ 母性看護学[1] 母性看護学概論 医学書院			
評価方法			
筆記試験、レポート（100%）			
授業計画			
回	単元	授業内容	授業方法
第1～3回	母性看護の基盤となる概念	母性とは 母子関係と家族発達 セクシュアリティ リプロダクティブヘルス／ライツ ヘルスプロモーション 母性看護のあり方 母性看護における倫理 母性看護における安全・事故予防	講義 演習
第4～6回	母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状	母性看護の歴史的変遷と現状 （統計・法律・施策） 母性看護の提供システム	
第7～8回	母性看護の対象理解	女性のライフサイクルと家族 母性の発達・成熟・継承	
第9～11回	女性のライフステージ各期における看護	ライフサイクルにおける女性の健康と看護 思春期、性成熟期、更年期・老年期 （月経異常・更年期障害・子宮筋腫・子宮内膜症・ 卵巣腫瘍・乳がん・子宮頸がん・子宮体がん）	
第12～14回	リプロダクティブヘルスケア	家族計画 性感染症とその予防 HIVに感染した女性に対する看護 人工妊娠中絶と看護 喫煙と女性の健康 性暴力を受けた女性に対する看護 児童虐待と看護 国際化社会と看護	
第15回	筆記試験		

科目名	科目担当者	開講時期	単位数／時間数
母性看護学Ⅰ	医師	2年次前期	1単位／15時間
科目目標			
1. 子どもを産み育てるにあたっての問題について理解する。 2. ハイリスクおよび異常妊娠・分娩・産褥について理解する。			
教科書		参考文献	
系統看護学講座 専門Ⅱ 母性看護学[2] 母性看護学各論 医学書院			
評価方法			
筆記試験（100％）			
授業計画			
回	単元	授業内容	授業方法
第1～ 3回	出産前からのリプロダクティブヘルスケア	1. 遺伝相談 1) 遺伝相談とは 2) 出生前診断 3) 出生前診断の実際 4) 着床前診断 5) 胎児治療と遺伝子治療 2. 不妊治療 1) 不妊とその原因 2) 不妊検査 3) 不妊治療	講義
第4～ 7回	妊娠・分娩・産褥の異常	1. 妊娠の異常 1) ハイリスク妊娠 2) 妊娠期の感染症 3) 妊娠疾患 4) 多胎妊娠 5) 妊娠持続期間の異常 6) 異所性妊娠 2. 分娩の異常 1) 産道の異常 2) 娩出力の異常 3) 胎児の異常による分娩障害 4) 胎児の付属物の異常 5) 胎児機能不全 6) 分娩時の損傷 7) 分娩第3期および分娩直後の異常 8) 分娩時異常出血 9) 産科処置と産科手術 3. 産褥の異常 1) 子宮復古不全 2) 産褥期の発熱 3) 産褥血栓症 4) 精神障害	
第8回	試験		

科目名	科目担当者	開講時期	単位数／時間数
母性看護学Ⅱ	専任教員 看護師	2年次前期	1単位／30時間
科目目標			
1. 妊娠・分娩・産褥期の生理、心理的・社会的特徴を理解し、対象およびその家族の看護を理解する。 2. 新生児の生理を理解し、胎外生活への適応への看護を理解する。			
教科書		参考文献	
系統看護学講座 専門Ⅱ 母性看護学[2]母性看護学各論 (医学書院) 病気がみえる10 産科 第4版			
評価方法			
筆記試験、レポート (100%)			
授業計画			
回	単元	授業内容等	授業方法
第1～4回	妊娠期における看護	1. 妊娠期の身体的特徴 2. 妊娠期の心理・社会的特性 3. 妊婦と胎児のアセスメント 4. 妊婦と家族の看護	講義
第5～7回	分娩期における看護	1. 分娩の要素 2. 分娩の経過 3. 産婦・胎児、家族のアセスメント 4. 分娩期の看護の実際	
第8～11回	新生児期における看護	1. 新生児の生理 2. 新生児のアセスメント 3. 新生児の看護	
第12～14回	産褥期における看護	1. 産褥経過 2. 褥婦のアセスメント 3. 産褥と家族の看護 4. 施設退院後の看護	
第15回	試験		

科目名	科目担当者	開講時期	単位数/時間数
母性看護学Ⅲ	専任教員	2年次後期	1単位/30時間
科目目標			
1. リプロダクティブヘルスに対する看護について学ぶ。 2. ハイリスクおよび異常妊娠・分娩・産褥・新生児の看護について理解する。 3. 周産期にある対象の看護過程について学ぶ。 4. 周産期にある対象の看護技術を学ぶ。			
教科書		参考文献	
1) 系統看護学講座 専門Ⅱ 母性看護学概論 医学書院 2) 系統看護学講座 専門Ⅱ 母性看護学各論 医学書院 3) 写真でわかる母性看護技術 インターメディカ 4) ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程 第3版 医歯薬出版		1) ウェルネスからみた 母性看護過程+病態関連 図 第2版 医学書院 2) マタニティ診断ガイドブック 医学書院 3) 母性看護実習ガイド 照林社	
評価方法			
筆記試験 課題レポート (100%)			
授業計画			
時間	単 元	授業内容等	授業方法
第1～ 3回	出生前からのリプロダクティブヘルスケア	1. 遺伝相談 出生前診断を受ける人への看護 2. 不妊治療と看護 不妊治療を受けている女性の心理・社会的特徴 不妊夫婦の看護 不妊治療によって妊娠した女性・家族の看護 不妊治療の終結にかかわる看護	講義
第4～ 6回	妊娠・分娩・新生児・産褥の異常と看護	1. 妊娠の異常と看護 2. 分娩の異常と看護 異常のある産婦、異常分娩 3. 新生児の異常と看護 低出生体重児、高ビリルビン血症 4. 産褥の異常と看護 子宮復古不全、産褥期の発熱、乳房トラブル 5. 精神障害合併妊婦と家族の看護	
第7～ 12回	周産期にある対象の看護過程の展開	1. 母性看護における対象把握 2. ウェルネス診断とは 3. 産褥期のアセスメント項目と診断に必要な視点 4. 新生児期のアセスメント項目と診断に必要な視点 5. 事例の展開	講義 演習
第13～ 14回	周産期にある対象の看護技術	1. レオポルド触診法 2. 新生児の諸計測 3. 沐浴	講義 演習
第15回		試験	